

平成21年度度 総会・見学会

平成21年8月27日

兵庫県立淡路景観園芸学校

富島震災復興土地区画整理事業地区

南あわじウィンドファーム

1. 日 時: 平成 21 年 8 月 27 日(木) 13:00～

2. 集合場所: 神戸市役所 3 号館前(フラワーロードより 1 筋西側)

3. 行 程:

13:00 上記場所に集合、バス乗車後出発

13:50 兵庫県立淡路景観園芸学校に到着、同施設を見学

新しい概念「景観園芸」の教育研究機関。開校 10 周年を迎えたこの4月に大学院を設置。
豊かな自然の中に、庭園を取り囲むかたちで配されたキャンパスそのものが、日本で唯一の園芸分野の実践的専門教育すなわちフィールドワークの場となっている。

15:00 出発

15:15 富島震災復興土地区画整理事業地区に到着、車内から見学

阪神・淡路大震災で家屋の 80%が全半壊し、住民26人が亡くなった淡路市富島地区。11年前に事業に着手し、ようやく完了のめどがたった。細い街路にひしめきあっていた家屋720棟を移転、幹線道路の県道を 15mに拡幅、20カ所の公園を整備した。

15:20 同地区を通り抜け、出発

16:00 南あわじウィンドファーム(風力発電施設)に到着、同施設を見学

年間に 9,200 万 kW の電気を生み出す国内最大級の風力発電施設。高さ85mの風車15基が海拔 118m～226mの丘陵に立ち並ぶ巨大な「オブジェ」は、前面にひろがる鳴門海峡の風景と不思議な対比をみせる景観をつくりだしている。

17:00 出発

18:15 総会・懇親会場(「草乃家」)に到着

18:30 総会・懇親会開始

20:30 総会・懇親会終了、その場で解散(徒歩にてJR神戸駅に)

兵庫県立淡路景観園芸学校



兵庫県立淡路景観園芸学校



13ヘクタールのキャンパスには、屋内外を問わず高度な講義や実技・実習、あるいは教員の調査研究を支える施設や設備が整備され、実践的学府にふさわしい充実した環境を創出している。人と自然の共生の思想のもと、美しく快適な空間や、環境への配慮が具現化され、学生も教員も、また、学校を訪れた人々も、植物にふれ、多くのことを学び、創造性を豊かにする開かれたキャンパスになっている。

設立の背景と経過

兵庫県は、日本の縮図と言われるほど多様な自然環境のもとで地域固有の歴史、文化、風土を活かした美しいまちづくり・地域づくりを推進している。中でも、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえた兵庫県独自の課税である「県民緑税」による災害に強い森づくりや都市緑化など、全国でも先進的な取り組みを行ってきたが、これらの政策を円滑に進めるためには、制度設計を行い、実践する専門家と、地域住民の参画と協働が不可欠である。こうした観点から、1994年に淡路園芸学校(仮称)の開設が決定された。翌年1月の阪神・淡路大震災で都市内の緑とオープンスペースの重要性が再認識されたこと、復旧・復興のまちづくりにおいても、防災やコミュニティ再生の観点から公園や緑の重要性が指摘され、また、仮設住宅等における被災者の心の支えに花や緑が大きな役割を果たしたことから、園芸療法教育の必要性も認識されたことから、震災によって開校が1年延期されたものの、99年4月には淡路景観園芸学校が開校した。その後、2002年には社会人、大学生向けの最新緑化技術研修コースや園芸療法課程が開設され、08年には県立大学専門職大学院(緑環境景観マネジメント研究科)が設置された。さらに今年4月には県立大学専門職大学院が開校した。



兵庫県立淡路景観園芸学校



富島震災復興土地区画整理事業地区

富島震災復興土地区画整理事業地区

施工前(平成7年1月撮影)



施工中(平成20年4月撮影)

としま 富島震災復興土地区画整理事業地区



潮の香りがする漁師町の中心部を貫くように延びる幹線道路。区画ごとに新しい住宅が立ち並ぶ住宅街は、碁盤の目のように規則正しく整備されている。きれいに舗装された道路。神社、公園など建造物すべてが真新しい。震災復興土地区画整理事業の都市計画決定は、1995年3月。震災から2カ月という早さ。碁盤の目に街路を重ねる近代的手法が、昔ながらの漁師町にふさわしいか熟慮する間もなく導入した事業。完了に至る道のりは険しかった。一部住民の強い反発。「死んだ娘がいた土地を離れたくない」という住民もあり、家屋など6棟が強制移転された。震災から13年以上が過ぎ、美しく整備された町。「生活も便利になった。区画整理を進めてよかった」。曲折を経てふるさとの復興がようやく完了の時期を迎えた。

富島地区は、東西約1.3km、南北0.3kmの細長い地区で、面積は約21haあります。海沿いには県道(幅員6~8m)が、市街地の中には旧県道(幅員3~4m:通称「中道」)が平行して走り、この2本の道路を軸として市街地は形成されています。

また、漁業のまちとして栄えてきた当地区には、古くから『網道』と呼ばれる幅員1m前後の狭小な生活道路が、海から山に向かって放射状に数多く走っています。この道路沿いに大部分の建物が密集し、日照、通風等住環境面に課題を持ち、また、火災等防災面でも安全な状況ではありませんでした。



阪神淡路大震災により、震源地に近い富島地区は壊滅的な被害を被りました。幸い火災は免れましたが、地区の約80%の建物が半壊し、狭小な道路のため救援活動に大変な支障をきたしました。



南あわじウィンドファーム



CEF 南あわじウィンドファーム (CEF: Clean Energy Factory)



北海道根室市の発電事業者「クリーンエネルギーファクトリー」による国内最大級の風力発電施設。南あわじ市阿那賀にある海拔118m～226m、南北約4キロの丘陵地に、高さ約85mの風車が15基設けられている。発電能力は、2,500kw×15基で37,500kw。一般家庭12,000世帯分＝南あわじ市の全世帯の3分の2相当の電力を賄えるという。すべて関西電力に売電。地中ケーブルで送電線に接続する。回転翼はドイツ製で一枚の長さは44m、FRP製で重さは1枚8.5t。6秒に一回転している。塔は直径4.3m。高さは支柱頂上まで85m。回転翼の一番上までは129m。

